

## 原点回帰と「災」

浅野 介<sup>よし</sup> 敬<sup>ひろ</sup> (良裕)

今年も原点回帰をテーマに、歩き方や呼吸、運動、仕事、歴史と生活全般にわたり様々な分野にわたって考えてきました。今、社会や個人、自然等で多くの問題が顕在化しており、またAIや情報通信、生命科学等の発展で時代は大きな変革期にあると言われております。

変革の時代こそ、もう一度原点に立ち返り進むべき方向を確認しないと、これまでの惰性で、危険な方向へ向かってしまうかもしれません。

人は一度学んだり、習慣になってしまうと、殆ど意識することなく同じ行動を繰り返してしまいがちです。すると人の身体や行動、組織や社会システム自体が硬直化して衰退への道を歩んでいきます。

今年の漢字は「災」が選ばれました。これは多くの自然災害が起こった年だからという理由でしたが、洪水や土砂崩れが起こった土地は、地名にも現れているように昔から危険な場所にあったところも多いようです。その土地の現状を見るだけでなく、過去＝原点を調べることにより、埋立地、山、谷、原等その土地の性格が分かり、またその周りの環境からの影響も分かり、その土地に適した用途で利用できるはずですよ。

科学技術の発達で埋立てや造成によりこれまで人が住めなかったところにも住むようになりましたが、逆にこれが被害を大きくしたのかもしれない。土地などは何十万年もかけて変化していくものですから、これらを考えずに利用してきた結果ならば、自然災害というよりも人災と言えるかもしれません。

また多くの災害をもたらしている異常気象は、人間の活動によるCO<sub>2</sub>の発生によっての地球温暖化等人間がもたらしている面が強く、この意味でもこれまでの人間活動そのものを原点から見直していく必要があるのではないのでしょうか。

前回のコラムではAIの人間化と人間のロボット化と題して、AIが人間の能力、機能を真似して進化してきており、また人間は逆に社会がシステム化、機械化して来ているためにそれに合わせてロボット化しているのではないかと述べました。人間が人間の作ったものに縛られて息苦しくなっているような状況。

そのために癒しや自然、心身の健康回復が求められています。人間はより楽に快適に暮らせるよう科学技術を発展させてきましたが、これが逆に人間を結果的に苦しめることになっていくのかもしれない。現在の快樂のつけが未来の苦痛に繋がること。目先、今、自分の周りだけでなく、過去の原点を踏まえ、将来や周りの環境、関係性にまで意識を置いて生きることが必要ではないのでしょうか。それも堅苦しく考えてするのではなく、感覚的、無意識的にもできるように。過去と未来を含んだ今に生きること。

豊かな感受性、柔軟な心、自然の生命体のような無限の多様性への適応。しかしながら多様性を貫く本質・原点を見る目、ぶれない意思も必要ですよ。

今年も原点回帰というよりも、変化の前の症状の発現、災いのほうが多かったかもしれませんが、来年「災い転じて福となす」ためには、こうした柔軟性と原点・本質を観る目、専門性を超えた広い視野で行動することが必要ではないのでしょうか。